

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

乳腺炎ケアガイドライン 2020

公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本助産学会
日本助産師会出版、発行年月日 2021 年 2 月 1 日 2 版発行

■1 葛根湯

疾患:

乳腺炎症状

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ5: 乳腺炎の女性が、葛根湯を服用すると、乳腺炎症状（発熱・発赤・疼痛・腫脹）が改善するか？』に、下記の記載がある。

『P: 乳腺炎の女性 I: 葛根湯を服用する C: 葛根湯を服用しない O: 乳腺炎症状（全身の発熱、乳房の発赤・疼痛・腫脹）の改善

【推奨】今回は該当する研究が見つからず、エビデンスが存在しなかった。

【エビデンスの確実性】評価できず

【解説】今回の網羅的文献検索の結果、該当する介入研究は見つからなかった。

【日本助産師会・日本助産学会の提案】

乳腺炎症状の改善を期待して慣例的に葛根湯が用いられている。一方、乳腺炎症状を改善する効果の根拠は不明である。そのため、日本助産師会・日本助産学会は、助産師が乳腺炎症状を改善する目的で、葛根湯の服用を勧めることは提案しない。』

※PICO

P: Patients, Problem, Population (対象の範囲や症状など)

I: Intervention (検討したい治療法)

C: Controls, Comparators (比較する治療法)

O: Outcome (アウトカム)

■2 葛根湯

疾患:

乳腺炎症状

有効性に関する記載ないしその要約:

『コラム 葛根湯』に、下記の記載がある。

『乳腺炎症状の改善を期待して慣例的に葛根湯が用いられている。一方、乳腺炎症状を改善する効果の根拠は不明である。そのため、助産師会・助産学会は、助産師が乳腺炎症状を改善する目的で、葛根湯の服用を勧めることは提案しない (p.97 CQ5 参照) 。』